

20. 大阪府てんかん地域診療連携体制整備事業 令和7年度の活動について

大阪大学医学部附属病院 てんかんセンター
貴島 晴彦

まとめ

大阪府のてんかん地域診療体制拠点事業は令和元年7月8日に拠点病院として大阪大学医学部附属病院が指定され開始となった。令和4年度からはこれまでの3年間の実績がまとめられ継続して大阪大学医学部附属病院がてんかん地域診療体制拠点として大阪府から指定されている。令和7年度も継続して大阪府の特性を活かしたてんかん地域診療拠点体制を構築することを目指した。主な事業計画として、継続的な事業として啓発活動、教育、ネットワーク整備とした。また、府内でのコーディネーターの連絡網の整備、情報交換を実現している。これらは、特に地域での診療連携の向上に加えて、患者の利便性、さらに患者の社会資本の有効利用や社会参加につながるものである。

1. 概要

大阪府はてんかん地域診療体制拠点事業に参加している道府県の中では最も人口の密集している地域であり、日本で唯一いわゆる僻地が存在しない自治体であるとも言われている。また、てんかんを扱う医療施設も府内に点在している。そのため、本整備事業では協議会のメンバーが府内の複数の施設から参加している。一方で二次医療圏ごとに見ると、均等にてんかん専門医が配置されているとは言えない面もある。それぞれの施設の診療内容、所在地や交通の面でも特徴がある。単一の施設のみでてんかんに関わる多くの問題解決を担う必要には迫られていないが、てんかんを診療する医師が情報を交換し、てんかん患者も十分に情報を得て、自由にてんかん診療を受ける事ができる体制の構築を目指す。その中でも、キャリアオーバーに関わる問題については、この数年は本事業を通じて議論が行われている。特に令和7年度はこれまでの事業の継続した活動に加えて、令和5年度に開始したコーディネーター間のネットワーク形成、さらに6年度からの課題であった学校等の教育施設への啓発についても活動を継続している。

さらに、一昨年よりオンラインでの視聴可能な教育用のビデオコンテンツを作成している。

大阪府てんかん治療医療連携協議会を例年通り2回実施した。

第1回 令和7年7月14日（月）

第2回 令和7年10月9日（木）

2. 大阪府のてんかん整備事業

2.1. 啓発活動、教育

医療従事者、関係機関職員、てんかん患者・家族、教育機関などに対する研修

【協議会主催】

第3回大阪府てんかん治療医療連携の会

2026年2月21日（土） 15:00～18:00 大阪大学中之島センター

トピック

病診連携のあり方

トランジションの課題

大阪府のてんかん医療体制について

大阪府てんかん治療医療連携の会は令和5年度から開始した事業であり、医師、コーディネーター、メディカルスタッフ、患者団体が一堂に会して、情報の共有を行うことを目的としている。

【大阪大学医学部附属病院てんかんセンター】

若手医師向けの Web コンテンツ公開 2022 (配信開始:2022年12月23日)

「すべての医師に知って欲しい!てんかんの話」

「小児てんかん診療入門」 講師：青天目信先生（小児科）

「成人のてんかん・診断編」 講師：押野悟先生（脳神経外科）

若手医師向けの Web コンテンツ公開 2023 (配信開始 2023 年 12 月 21 日)

「小児てんかんの薬物治療 ABC」 講師：下野 九理子先生（小児科）

「精神科医から見たてんかん診療について」 講師：畑 真弘先生（神経科・精神科）

若手医師向けの Web コンテンツ公開 2024 (配信開始 2025 年 3 月 6 日)

「成人てんかんの治療について」 クー ウイミン先生（脳神経外科）

学校関係者向けコンテンツ 2025

「てんかんを持つ児童の安全な学校生活」 (配信開始 2025 年 10 月 1 日配信)

講師：下野九理子先生（小児科）

「てんかん発作の治療（仮）」 (2026 年 2 月配信予定)

講師 谷河純平先生（小児科）

学校関係者向けコンテンツについては、大阪府から府の教育庁を通じて各学校に周知予定であり、小中学校のほか、高校や支援級にも周知を検討している。

医療従事者向けてんかんセミナー2025

2025 年 11 月 26 日（水） 大阪大学てんかんセミナーの開催

座長：馬場孝輔先生（神経内科）

「臨床におけるモバイル脳波計使用の特徴：従来の脳波計と比較した単一施設の後方視的分析」

古谷祥吾先生（神経内科）

「ラコサミド使用例の臨床的特徴：3 + 1 症例による検討」

畑真弘先生（精神科）

特別講演

座長：畑真弘先生（精神科）

「てんかんにおける脳画像解析研究と精神科医の役割」

曾根大地先生（東京慈恵会医科大学精神医学講座 講師）

【市立吹田市民病院】

脳を守る一心身ともに健康な自立した老後を目指してー「見逃されている高齢者てんかん」中野美佐先生 第 34 回日本脳ドック学会総会市民公開講座

2025 年 6 月 29 日（日） 市立吹田市民病院講堂

2019 年から毎月第二火曜日 19 時から約 1 時間 ZOOM でのオンライン研修会を開催しており、34 名の医師が大阪、東京、奈良、香川、福岡から参加している。

【大阪市立総合医療センター】

大阪市立総合医療センター 小児青年てんかん診療センター 公開セミナー

こどもと青年期のてんかん 2025（旧こどものひきつけ）

会場：大阪市立総合医療センター さくらホール

2025 年 9 月 21 日（日） 10:30-12:30

対象：てんかん患者・家族、教育関係者、福祉関係者、医療関係者、一般の方
こどもと青年期のてんかんに関心がある方

第 1 部

こどもと青年期のてんかんについて-基礎知識から最新治療まで

座長：小児脳神経・言語療法内科 医長 福岡 正隆

① こどものてんかん

小児脳神経・言語療法内科 医長 温井 めぐみ 先生

② 青年期のてんかん

脳神経内科 部長 三枝 隆博 先生

③ 抗てんかん発作薬、どう飲ませる？～現場の知恵と調剤の工夫～

nanacara 薬局 薬剤師 古武 幸之 先生

第 2 部

乳児てんかん性スパズム症候群(ウエスト症候群)に対して脳梁離断、ステレオ脳波検査を経て半球離断を受けた当事者、ご家族とともに

座長:小児脳神経・言語療法内科 医長 九鬼一郎 先生

- ④ 脳の中から脳をみる? 最新のステレオ脳波検査について
小児脳神経・言語療法内科 医長 井上 岳司 先生
- ⑤ こどものてんかん外科を経験して
てんかん当事者のご両親
- ⑥ トークセッション: よりよいてんかん診療をめざして
てんかん当事者のご両親と医師

【近畿大学主催】

2025年11月25日(火)開催 近畿大学本学(医学部以外の学生と教職員向け)
特別支援教育学 特別講義 教職教育部人権研修合同

「てんかんを隠さなくても良い社会」
中野直樹先生

【日本てんかん協会大阪府支部】

てんかん啓発イベント「パープルデー大阪」

2026年3月22日(日) あべのハルカス近鉄本店他

2025年10月26日(日) 温井先生講演

「こどものてんかん基礎知識-発達を促す関わり方-」 エル大阪にて
難病連主催

2025年11月16日(日) 交流会 カレー作り 豊中市 障害者福祉センターひまわり

2025年12月21日(日) クリスマス会 長居障害者スポーツセンター

ほか、明星学園で体験談や交流会を実施

2.2. 患診療情報の共有と病院間ネットワークの形成

てんかん診療マップへ追加登録

大阪府下でのてんかん診療医療機関を周知し、患者が自らアクセスしやすくなることや、他院へ紹介する際の医療設備・診療内容を分かりやすく検索することができる様にてんかん診療マップを作成している。

令和7年10月に、検索結果を地図上にピンで表示するよう改修した。

<https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/home/epilepsy/search/>

診療マップ登録施設数 158 施設

Nanacara for Doctor に「お知らせ(大阪府限定)」を作成し、随時講演会などの情報を取得できるシステムを平成5年度に構築し、運営を継続している。

課題

- ・大阪府下てんかん診療施設検索サイト(てんかんマップ)について、てんかん学会近畿支部でも報告があがっており、近隣他府県と連携ができないか、との提案がある。近畿では大阪の他、奈良、京都、兵庫でてんかん拠点事業が実施されており、まずは4府県での連携について、今後学会で検討する。
- ・マップで検索できる情報が十分に知られておらず、周知不足が課題である。

2.3. てんかん相談窓口

てんかん患者や家族のための相談窓口を2020年9月よりてんかんセンターホームページ上に設置し、運用を開始している。回答者は大阪大学医学部附属病院てんかんセンターに所属する医師あるいは協議会のメンバーである。相談者は他府県の方もあり、ご家族からの相談が多い。相談内容としては、現在の治療内容に関する質問、診療機関、利用できる医療福祉サービスの案内、学校生活、子育て、就労についてなどである。

- ・てんかんセンターHPからの相談事業継続

今年度は1月時点で11件の相談があった。治療、診断に関する相談が半数以上。

適宜担当者から回答した。

- ・通院中患者および家族の相談対応を患者包括サポートセンターにて対応。

1月時点94件。相談内容としては近隣のかかりつけ医や転居などによる転院先、訪問看護ステーションの紹介などが多く、他には利用できる制度など社会資源の紹介、手続きの案内など。

てんかん患者及びその家族への福祉的な相談支援、他医療機関、関係機関との連絡調整を行っている。

・患者・家族への相談事業

① 相談方法と対象者(主たる対象者2名まで)

	本人	家族	医療機関	関係機関	計
面接	19	20	0	0	39
電話	6	6	31	22	65
メール			1		1
その他 (Web相談)	2	9			11
計	27	35	32	22	116

②相談内容 (1相談に対し、主たる相談内容のうち、2つまでを選択した計)

ア 検査・治療(内服・外科手術など)に関すること	19
イ セカンドオピニオンに関すること	4
ウ 生活支援に関すること(経済支援・福祉制度など)	41
エ 教育・進学に関すること	2
オ 就職・就労に関すること	4
カ 他の医療機関に関すること	41
キ その他	2
計(複数回答)	113

3. 大阪府のてんかん医療体制における課題の抽出とその他の意見

- ・患者家族として、移行期支援はここ10年ほど進展がないと感じている。
- ・移行期の引継ぎの際、転薬についても引き継いでほしい。
- ・幼少期から使っている薬が大人になると回避すべきものであっても、辞めることが難しい。
- ・発作治療についての動画もいいが、薬の効果で活力が減退する場合などについて説明する動画があっても良いのでは。
- ・医療従事者側の懸念点、受診の際の困りごとなどを事前に知っておけば親も準備ができるので、情報共有できないか。
- ・成人科に移ると小児科に戻れない。小児科とは医師とのかかわり方が変わる(親の意見を聞いてもらにくい)。
- ・症状の変化による転科や、急性期・超急性期の際に連携が必要となるなど、一か所で包括的に診るのは難しい。
- ・患者や家族から相談を受けた際に対応者の知識や経験、考え方に左右されることを懸念する。
- ・講演以外にも意見交換や気さくに話ができる場ができないか。
- ・講演会や交流会の周知について。